

JCMU newsletter

ミシガン州立大学連合日本センター

The Japan Center for Michigan Universities

No.40
2006 夏

Director's Report

Jeffrey Johnson,
Director of Japan Center for Michigan Universities

OVERLOAD seems to be the operative word at JCMU recently. Five professors came in May with a total of almost 50 students. Even the May programs that operate for only two weeks put us over capacity. The summer programs over the last several years have frequently exceeded 50 students and this summer will not be an exception. For Fall Semester 2006 we are also scheduled to exceed capacity - that will make it the first regular semester over capacity for quite a number of years.

This situation strains all resources, housing, homestays, classroom space, class size, even staff and instructors. The newness of this problem is one aspect, it is something that JCMU has never faced before, but it seems to have arisen in a policy vacuum so that articulating a policy that appropriately addresses the problem is greatly needed.

JCMU is still in the process of developing its reputation as a solid Japanese language and culture program, and that is largely due to the high quality of language instruction we have here. It was not long ago that students did not place at appropriate levels upon returning to their home campuses, but that is certainly not the case anymore. We now have complimentary courses in Buddhism, Pop culture, civilization, etc., which are provided by local Japanese universities and visiting scholars that serve to enhance our reputation and further attract students.

Filling the program beyond capacity will not aid the reputation nor the long-term development of JCMU. With the growth of the English program into the instruction of SU and USP students bound for Michigan, as well as growth in Otsu, we face an expansion that will require significant investment and foresight.



滋賀大学キャンパスツアーにて。夏学期の留学生40名が、滋賀大生の皆さんに大学案内をしていただきました。

ディレクターズ レポート

ジェフリー・ジョンソン
ミシガン州立大学連合日本センター所長

最近のJCMUでは、収容人員を上回るほどの留学生受け入れが続いています。5月には、5人の教授が計50名の留学生を連れてやってきました。この2週間の短期プログラムでもJCMUの収容人員を上回る利用者があったところですが、毎年恒例の6月からの夏のプログラムでは、ここ数年頻繁に参加者数が50名を超えており、今夏もその例外ではありません。本年の秋学期についても、収容人員を上回る留学生の参加が見込まれ

ていますが、夏以外の定期プログラムに限って言えば、久しぶりの出来事です。

この状況に対しては、寮や教室のスペース、クラスのサイズやホームステイ、また教職員の業務などにおいて、様々な工夫や配慮を行って対応しています。このような状況はJCMUにとって初めてのことであり、将来に向けて新たな方針が必要になってきています。

JCMUの日本語/日本文化プログラムは、質の高い言語指導により、さらに発展を続けています。かつては、修了生の習熟度が不十分で、それぞれの母校のクラスレベルに達しないこともありましたが、現在では、地元の日本の大学やJCMU客員教官により、私たちの評判や魅力を高める仏教やポップカルチャー、文化などの特別コースも用意され、状況は様変わりしました。

留学生向けのプログラムは定員を上回る状態で運営を続けていますが、滋賀県立大学や滋賀大学からミシガン州の大学に派遣される学生等を対象とした英語コースや、新設の天津での英語コースの成功もあって、現在私たちはさらなる発展の途上にあります。長期的な発展のため、将来に向けて新たな配慮や取り組みを行っていきたく考えています。



先生に密着!



Prof. Dennis Patterson (デニス・パターソン先生)

講座名: 戦後日本の政治・経済

もともとはミシガン州立大学にいましたが、現在はテキサス州にあるテキサス工科大学で、政治学を教えています。これまでに何度となく日本に来ていますし、中でもよく訪れる彦根は、まるで私にとっては第二の故郷のようです。

私は主に戦後日本の政治や経済を中心に研究を進めているので、普段から日本語で書かれた文献をたくさん読んでいます。興味深いことに、日本の政治や経済を研究していると、アメリカの政治や経済がより深く、よりはっきりと見えてくるようになります。今回も学生と共にすばらしい2週間を過ごすことができました。また次回、多くの学生を連れて日本に来るのを楽しみにしています。

私たちが外国語を勉強していると、母国語についてあらためて知ることがたくさんあります。パターソン先生は、流暢な日本語でユーモアを交えて楽しくインタビューに答えてくださいました。



Prof. Don Werthmann (ドン・ワースマン先生)

講座名: デジタル写真研究

ミシガン州アナーバー市にあるワシュタナー・コミュニティカレッジでデジタル写真を教えています。これまでに3回ほど日本に来たことがありますが、公共交通機関が発達しているだけでなく、人々も親切なので、とても快適に過ごすことができますね。また、日本は食べ物がとてもおいしいです。

今回のプログラムでは、彦根城や京都・奈良・広島を訪れて撮った写真をクラスに持ち帰り、ポートフォリオにまとめる作業を行いました。大阪芸術大学を訪問し、学生同士の交流の機会を持つことができたことも、大変有意義だったと思います。学生には、作品を5枚程度提出するようになっていましたが、滞在中は良い写真がたくさん撮れたので、絞るのが難しかったようです。

身近で便利なデジタルカメラの授業は、学生にもとても人気があるようです。紳士的で笑顔の素敵なワースマン先生でした。



写真上下:いずれも学生が撮影した写真です。

社会 短期特別講座

毎年5月になると、政治や文化、芸術など様々な専攻の留学生が2週間ほどの期間JCMUにやってきます。今年も総勢50人ほどの学生が、JCMUを拠点にしてさまざまな施設や名所を訪問しながら、学習や制作に取り組みました。日本に来るのは全く初めてという学生がほとんどでしたが、日本の社会や文化に触れながら、それぞれに滞在を楽しんでいました。そこで今回は、このプログラムの指導教官としてアメリカの大学から来られた3人の先生方にお話を伺いました。



Prof. Mary Brodbeck (メアリー・ブロードベック先生)

講座名：日本の木版画

ミシガン州のカラマズー市にあるカラマズー美術大学で木版画を教えています。今回の来日は4回目となります。2回目の来日では、東京で師匠のもと日本の伝統的な浮世絵の手法を学びました。私は主に風景をテーマにした多色刷りの木版画を制作しています。春の彦根の風景は、琵琶湖やツツジ、藤の花がとてもきれいなのがとても印象的です。

木版画の制作は、下絵を描き、それを木版に写し取り、彫刻し、色を重ねて何度も刷るといって、時間と手間のかかる作業です。大きい作品の場合、完成まで2ヶ月以上もかかることがあります。今回の滞在では、まず彦根城や京都を訪問して作品のテーマを決めました。2週間という短い期間でしたが、学生たちは皆とても熱心に制作に取り組み、それぞれに素晴らしい作品を完成させることができました。

ブロードベック先生は、学生の質問に対して一つひとつ丁寧に答え、アドバイスをしながら制作を支援していらっしゃいました。今回初めて木版画に挑戦したという学生もいたようですが、完成した作品はどれも色彩豊かで見事な仕上がりでした。



カラーでお見せできないのが残念です。



竹垣越しに見える彦根城の石垣と新緑



彦根城天守閣の継ぎ手



彦根城の瓦



現代風美人画



《秋季英語プログラムご案内》

開講期間 2006年9月19日(火)～12月11日(月)

英語集中コース 月～金 10:00～12:00 13:10～15:10
 留学・進学・転職・自己啓発のための英語総合力アップを図るコースです。午前中のみ受講できるモーニングコースもあります。

* アメリカからの留学生向け付属寮にルームメイトとして入寮できます。(人数に制限があります。)

スキル・テーマ別コース 週1～2回 10:00～12:00 13:10～15:10
 あなたの目的・時間にあわせて、「スピーキング・リスニング」、「アメリカ・オン・ビデオ」、「総合英語」等の実力アップを図るためのコースがあります。

夜間コース 月・木 週2回 19:00～20:30
 実用英会話ブラッシュアップのための夜間コースです。
 申込締切 2006年9月8日(金)

大津コースのご案内

開講期間:2006年9月20日(水)～12月13日(水)

大津マルチスキルコース

毎週水曜日 14:00～16:00

大津夜間コース

毎週水曜日 19:00～20:30

(ただし、いずれのコースとも11/1(水)、11/8(水)は休講で、11/10のみ金曜日にクラスがあります。)

場所:ピアザ淡海 (大津市におの浜一丁目)
 (びわ湖ホール東隣)

申込締切 2006年9月12日(火)

詳しくは、ミシガン州立大学連合日本センター
 TEL 0749-26-3400までお問い合わせください。

ホームページも、ご利用ください。
 < <http://www.jcmu.net> >

2006年度 行事予定

9/8 金 日本語 & 日本文化プログラム
 (秋学期)始業式

9/19 火 秋季英語プログラム開講

11/中旬 公開講座

《琵琶湖雑感》

母なる琵琶湖に生まれ、日々湖周道路を通勤しているわが身を幸いに思うことがある。学生時代にヨット部員で、湖上をよく帆走していた。毎年周航もしていた。天候の変化に伴いさまざまな様相を露呈する琵琶湖を肌で感じ、決して侮ってはならないことを知る貴重な体験をした。今、その当時に顧みると、母なる琵琶湖を畏れもなく接していたように思う。

その琵琶湖の形を観ていて人の足形に思えることがよくある。人の足と比較する事にした。母なる琵琶湖を足に比喻することに不快な思いをされる方があればお許しをいただきたい。琵琶湖の最長辺は西浅井町塩津浜と大津市玉野浦まで63.5km、最大幅は高島市饗庭と長浜市下坂浜の22.8kmである。これは長さ25cm、幅9cmの人の足と同じ比である。最深は103.58m、平均の深さは41.20mである。これらの値をさきほどの足のサイズに合わせると最深は0.41mm紳士靴下の厚さ程度であり、平均の深さは0.16mm事務用紙2枚弱の厚さである。

琵琶湖は日本最古の湖で世界でも有数の古代湖である。今の琵琶湖は100万年以上前にでき始めたそうである。琵琶湖は形を変え、移動し、現在の形になったのであるが、移動することがなかなか理解しにくい。そこで、土上に足跡がつく状況を想像することにした。深さが靴下の厚さ程度の足跡である。ぬかるみにできる足跡ではなく、乾いたグラウンドにできた足跡のようなものである。その足跡に水が溜まっている。水が溜まると言うほどでなく、濡れていると言った感じである。湯上りの足跡が床にできているようなものかと想像してみた。それらが少しの形状変化で移動する。これなら、十分に起り得る現象のように思えてしまう。

明治29年(110年前)に大豪雨で琵琶湖の水位が3.76m上昇し琵琶湖周辺地域が大洪水にみまわれた記録がある。再度さきほどの足に喩えると1000分の15mmの上昇となり、これは、家庭用のアルミホイールの厚さである。このように置き換えてみると、自然の営みにはこのようなスケールの現象はじゅうぶん起り得るのだらうと妙に得心してしまふのである。あわせて、大自然に畏敬の念を感じるのである。(川合 國夫)

長期ホストファミリー募集

ミシガン州立大学連合日本センターでは、アメリカ・ミシガン州を中心に、全米の大学から来日している留学生のホストファミリーを随時募集しています。留学生たちは、日本語、日本文化に興味をもっており、日本の家庭で生活しながら、皆様とふれあう機会を求めています。ひとりでも多くの留学生がホームステイの体験ができるようご協力いただければ幸いです。

当センターまでの通学所要時間が、1時間程度の範囲のご家庭であること、などの条件がございます。

詳しくは、下記までお問い合わせください。

Snapshots



滋賀大学キャンパスツアーにて。
 学食にもトライさせていただきました。

ミシガン州立大学連合 日本センター

〒522-0002

滋賀県彦根市松原町網代口1435 86

TEL 0749 26 3400 FAX 0749 24 9356

<http://www.jcmu.net>

編集・発行 (財)滋賀県国際協会 彦根事務所